



別売品や幹旋品を使用した据付方法

1. 据付棧 (RB-IO1K2 または RB-IO2K2)

回り縁と鴨居を利用する場合
据付棧(別売品)をお使いください。

- 据付棧上・下を回り縁下面から鴨居上面までの寸法に調整し、据付棧に同梱の取付ねじ(φ4×10L)で据付板を仮止めます。
- 仮組みした据付板と据付棧を②据付板取付ねじ(φ4×25L)で回り縁と鴨居へ固定します。
- 据付板の水平を確認してから仮止めのねじをしっかりと締め付けます。
- 据付板の最上部と下部の引っ掛け部付近は必ずねじ止めしてください。

お願い

- 据付板を据付棧上と据付棧下で重ならない部分で固定する場合は、M4六角ナットで据付棧下の裏から止めてください。(六角ナットはRB-IO1K2、RB-IO2K2に同梱しています。)
- 据付板は上と下を使用し、据付棧取付ピッチ(型紙に記載)で取り付けてください。このように取り付けない場合は、ビビリ音が発生することがあります。

2. アース棒(RB-Y12)

室外ユニットからアースを行う場合
アース棒(別売品)をお使いください。

3. その他

降雪・寒冷地域の据付

室外機を積雪から保護するため、防雪屋根を取り付けた高置台に室外機を据え付け、防雪フード・防雪パネルを取り付けてください。ドレン排水は「タレ流し」にしてください。

別売品	風向ガイド	吹出用	TCB-G14F
※乾旋品	防雪フード	側面用	TCB-SG50-F
		背面用	TCB-SG50-Y
		背面用	TCB-SG50-B
	防雪屋根		
防雪パネル			—
高置台			C-WZG

※東芝コンシューママーケティング(株) 幹旋品

据付工事完了後、必ず実施してください

試運転

- 電源プラグがコンセントに差し込まれているを確認します。
- 「自動運転」ボタンを10秒以上押すと「ビッ」と音が鳴り、強制冷房運転になります。約3分後に運転を開始します。運転を始めないときは、配線を再確認してください。
- 試運転を停止するときは、「自動運転」ボタンをもう一度押します。
- リモコンのボタンを押して、リモコンでも運転することを確認します。

3分間再起動防止タイマーについて
エアコンを起動するときや運転を切り換えたときは、約3分間運転を始めません。これは本体保護のためで故障ではありません。

こんなとき

エアコンが誤動作する

- 同じ部屋または、近接する部屋に2台室内ユニットを設置した場合、1台運転をするときに2台同時にリモコン信号を受信し、運転してしまうことがあります。このような場合どちらか一方の室内ユニットとリモコンを、B設定(工場出荷時は、どちらもA設定です。)にすることで2台同時に動く誤動作を防ぐことができます。
- 室内ユニットとリモコンの設定が異なる場合は、リモコンの信号を受け付けません。

手順1 リモコン側の設定方法

リモコンはB設定の場合のみ「B」と液晶表示されます。「A」の表示はありません。

- 乾電池を入れて、先の細いもので「リセット」ボタンを押してください。
- 先の細いもので「点検」ボタンを押します。(表示が「00」になります。)
- 「点検」ボタンを押したまま、「運転切換」ボタンを押すと設定温度表示部の右に小さく「B」が表示されます。(※「A」設定に戻すときは、「リセット」ボタンを押してください。)

手順2 室内ユニット側の設定方法

- B設定したリモコンの「運転切換」ボタンを押して「冷房」を選択します。
- 室内ユニットの「自動運転」ボタンを約1秒押しします。
- B設定したリモコンの「運転/停止」ボタンを押して冷房運転をします。(室内ユニットは「B」設定となります。)
- リモコンの「運転/停止」ボタンを押して停止します。(B設定したリモコンの運転切換表示が「暖房」で運転したとき、室内ユニットはB設定となりますが、室内ユニット表示部のすべてのランプが消灯することがあります。この場合、「運転切換」ボタンを押して「暖房」を選択し、室内ユニットの「自動運転」ボタンを押したまま(10秒未満)、「運転/停止」ボタンを押して暖房運転をしてください。)

手順3 動作確認

- 「B」に設定した場合⑨切換銘板を貼り付けてください。
- 変更したリモコンで室内ユニットが運転することを確認してください。

室内ユニットが運転せず、運転ランプが点滅する

- 電源電圧が200Vになっている可能性がありますので、電源電圧の確認をお願いします。

室外ユニットが運転せず、運転・タイマーランプが点滅する

- Fケーブルの接続不良が考えられます。接続の再確認をお願いします。

据付後の取りはずしかた(移設時など)

■室内ユニット

室内ユニット下側の「PUSH」を上押ししながら手前に引きます。

■室外ユニット

地球環境保護の観点から、ポンプダウン(冷媒回収)をしてから取りはずします。

警告

ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う

- 冷媒サイクル内に空気を混入させない
- サービスバルブを2つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管をはずす

圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷媒サイクル内に異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。

●ポンプダウンのしかた(移設時など)

- ①室内ユニットの「自動運転」ボタンを約10秒押しします。(ノビッと音がして強制冷房運転が始まります。)
- ②5分～10分後に液側サービスバルブの弁棒を閉めます。
- ③さらに2分～3分冷房運転後、ガス側サービスバルブの弁棒を閉め、運転を停止します。
- ④液側とガス側の接続配管を取りはずします。

液側サービスバルブ
ガス側サービスバルブ

既設配管再利用のときのご注意

- 古いエアコンを取りはずすときは必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を行ってください。
- 配管壁厚が0.8mmあること。(JIS規格の配管)
- フレアはR32対応に切り直し、φ12.7mmの既設配管のときはフレアナットの変換が必要ですが、ポンプダウンができないとき、配管内が極端に汚れているときは、洗浄するか新しい配管に交換してください。
- 施工には、R32対応の工具を使用してください。
- 一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、このときは買い換え後のエアコンに合った新しい配管を使用してください。
- 配管に腐食・亀裂・傷・変形・劣化などが無い点検してください。
- 配管以外の部材(断熱材や配管支持部材など)も再使用可能か点検してください。
- 再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してください。